

# 須AIRL

～sumairu～



## 第5回すどフォトコンテスト グランプリ作品「未来へジャンプ」

大棚の滝に向かって果敢にジャンプした姿を撮りました。

撮影 高橋正雄さん（寿）

編集・発行

一般社団法人 須津地区まちづくり協議会

事務局：須津まちづくりセンター

TEL：34-0004

題字・デザイン＝伊藤 友香さん（大学3年生：中里3）

大好きな地元の特産であるみかんとお茶をイメージして、6月のジメジメを吹き飛ばせるように、明るくポップなデザインにしました。

これまで市が担ってきたまちづくりセンターを、地区住民が主体となって施設の管理・運営をおこなっていくことになり、4月3日(日) 須津まちづくりセンターで開始式がおこなわれました。

## 小長井 義正 市長 より

須津地区の特性を生かした活動の中で、地域住民が自ら課題解決に向け、持続可能な地域づくりをおこない、須津地区が益々発展していくことを願います。

## 須津地区まちづくり協議会 会長 中端 秀敏

今年度からまちづくりセンターの運営を、地区でおこなうようになりました。  
須津地区の課題として「①高齢者対策 ②防災対策 ③若者を育てる」の3点に重点を置き、地区の課題に対して地域に寄り添い、自立した地区完結型の地域づくりを目指していきます。



来賓の皆様



須津まちづくりセンター 新職員紹介

## 参加した地区の方の声

これからの須津地区・まちづくりセンターに期待することは？

男性が気軽に参加できる講座・イベントがあると、まちづくりセンターが身近に感じるね。  
(60代男性)

子どもが好きになる地域にしたいですね。年代を問わずみんなが参加できるイベントがあるといいですね。  
(60代女性)

高齢者は免許証を返納すると、外出が思うようにならなくなる。須津地区は高齢者が多いので、他地域でおこなっている「デマンドタクシー」なども考えてもらえるとうれしいです。  
(80代女性)

誰でも気軽に立ち寄れるセンターになるといいですね。本を貸し出して頂けること知りませんでした。住民が利用できることをもっとPRしてください。  
(40代女性)

子どもが気軽に使える場所になるといいですね。  
(30代男性)

コロナで、高齢者が外に出ることが少なくなりました。センターで皆さんが気軽に交流できる場所・催しがあるといいですね。  
(50代女性)

## 開始式に合わせて



子どもの参加もあり賑やかに



「富士山第六天太鼓」の和太鼓演奏  
開始式に威勢の良い太鼓の響き！



お菓子の販売 大盛況！



入口では検温チェック 消毒もしっかりと！



雨の中、多くの方が参加してくださいました



役員の皆様、お疲れ様でした



上村 一郎 須津新交番長

令和4年3月に、富士警察署須津交番長に着任しました上村一郎です。



よろしくお願ひします。  
私は、小・中・高と富士市内の学校に通い、現在の住居も富士市内の富士市民です。須津地区は高校の近くであったこともあり、私が須津交番で勤務できることも何かの縁だと感じています。

須津地区の印象は、警らなど外で出会う方や子供達が気楽に声をかけてくれるなど人情味があり、須津川溪谷などの素晴らしい自然もあることから、休日などに管内を散策したいと思っています。

住民の皆様が安全を感じられるように、交番員一同努力していきますので応援をお願いいたします。



篠ヶ瀬 武 須津中学校新校長

四月より須津中学校に赴任いたしました篠ヶ瀬です。

私は雨の降った次の日の愛鷹連峰に雲がたなびく姿を眺めることが大好きです。中国の山水画を思わせる風景に心洗われます。美しい自然にあふれ、様々な文化財が豊富にある須津地区はとても魅力にあふれています。本校の目指す子ども像に「須津が好き生徒」があります。そのような生徒を育てていくために、本校では、子どもたちが地域に出て、地域の方と交流し、地域の魅力を知り、地域の未来を考える活動を、コロナ禍ではありますが、工夫し可能な限り行なっていきたいと考えています。

須津地区がより良くなるために、どのような貢献ができるのか考え、行動できるような生徒を育てていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。



## 新一年生へ図書バッグをプレゼント



本をたくさん読んでね



4月13日(水)  
たくさん本に親しんで欲しいとの思いを込めて、須津小学校の新一年生に、「須津地区まちづくり協議会」より、図書バッグをプレゼントしました。



中端会長より贈呈

### 編集後記

5月の連休に登山を楽しみました。新緑の美しさは格別です。登山道での挨拶や譲り合いは言わずと知れたマナーです。疲れていても、気持ちの良い声の掛け合いには笑みがこぼれます。頂上では「どちらからですか」「富士山と茶畑が見えるまちです」と胸を張ります。最近「バンジージャンプ」も定番となりました。  
新しいまちづくりが始まりました。須津の皆さんや須津を訪れる人達が、気持ち良く過ごせるよう、明るい挨拶や声掛けを心がけたいと思います。(クララ)

## 須津のれきし探訪

(シリーズ第16回)

須津と江戸 I 須津地区の『殿さま』④ 中里村の殿さま① 曾我氏②

杉本 寛郎 (富士山かぐや姫ミュージアム学芸員)

元禄十一年(一六九八)の領地替えで旗本曾我氏が中里村の殿さまとなりました。宝永二年(一七〇五)中里村を大型の台風が襲い、須津川・赤沢川の堤防、浮島沼の防潮堤が大破し、高潮による海水のために田畑は塩害を受けました。禄高の二〇%を占める中里村からの年貢収入が減少したため、曾我氏は幕府に頼み込んで、領地替えを願ひ出て、中里村は翌年から幕府領となりました。一見すると自分の領地・領民を見捨てたひどい殿さまのように見えますが、実は江戸時代の旗本と領地の関係はこのように希薄なものでした。旗本は將軍に仕えるため、基本的に江戸城下に住んでいたもので、自分の領地へ行くことはほぼなく、陣屋と呼ばれる出張所に数人の家臣を派遣し、事務処理を担当させていました。また、旗本の領地替えも頻繁にあったため、全国各地に点在する領地から年貢が入ればOKという考え方でした。「中里村の殿さま・曾我氏」はわずか八年間で幕を閉じました。



須津小学校は、今年、創立150周年を迎えます。また、125周年を記念して25年前に埋めたタイムカプセルの中身を配布する計画があります。(須津小学校1998年～2003年卒業生) 詳しくはこちら▶



♪右のQRコードを読み込むと、富士市のホームページで、須マイルの電子版を見ることができます。

